

今年もサンシャインに結集 子どもスマイルイベント 2023.4.4.

3回目となる「子どもスマイルイベントinサンシャインシティ」が今年も東京・池袋で開催されました。天気にも恵まれ、心温まる楽しい一日でした。

今回参加した子どもは24名。前回より小学生が増えました。ベトナム、ミャンマー、ネパール、中国にルーツを持つ家庭の子どもが半数を超え、多様性に富む皆さんでした。ほかに保護者や地元のNPO法人豊島WAKUWAKUネットワークのスタッフなど大人が12人、キワニス会員13人や、サンシャインの多数の社員がボランティアとして参加しました。

まず、サンシャインの大関さんの案内で、開館前の水族館に入れていただき、空飛ぶペンギンの前で記念撮影。あとはグループに分かれて自由に見学、海の友達に会って歓声を上げていました。クラゲの美しさ、サメの魅力、ペンギンの可愛さなどが印象的だったようで、飼育係の方の活躍ぶりにも感銘。写真が増えたと喜ぶ子どももいました。

続いて、カンファレンスルームに集合、小林会員が運営するシナリオセンターのチームの指導で、「シナリオ作り」の体験をしました。日本語がまだ不得手な子どもにも配慮して、まず主役となるキャラクター(主人公)を作り、次にそのライバルとなるキャラクターを想定、2人が登場する物語を考えるという手順で進めましたが、積極的に成果を発表する子どもが多く、よい思い出になったようです。

みなでお弁当を食べた後、一人一人の感想を言っていたいた。

豊島こどもWAKUWAKUネットワーク栗林知絵子理事長は「春休みの楽しみとして定着してきており、毎年楽しみにしている」と感謝していました。

【子ども達の感想】

- ・楽しかった
- ・水族館で魚が見られてうれしかった
- ・クラゲがきれい
- ・クラゲが見られてうれしかった
- ・サメがよかった
- ・ペンギン、クラゲ、魚がきれい
- ・写真が増えた
- ・キャラクターづくりがよかった
- ・飼育員の様子が見られた
- ・ごはんおいしかった
- ・いい思い出になった
- ・友だちが増えてうれしかった
- ・また来たい

水族館に笑顔



シナリオ作りも楽しむ



水族館でスマイル

池袋・サンシャインで子どもイベント 2022.4.5.

第2回「子どもスマイルイベントinサンシャインシティ」が東京・池袋のワールドインポートビルで開催されました。豊島区内の25人の子どもたちが参加し、みんなで水族館見学、シナリオづくり、お弁当とお昼過ぎまで楽しいひとときを過ごしました。

子ども達は、豊島子どもWAKUWAKUネットワークの栗林知絵子理事長にアレンジしていただき、今回は、新たに南大塚や駒込の母子家庭の方にも参加していただきました。昨年に続き二回目の方、初

めての方、
小学一年
生から中

高生まで、ミャンマー、ネパール、中国など関係の深い子ども達もいて、多様で幅広い参加者となりました。9人のキワニスメンバーのほか、保護者、引率のボランティア計12人、シナリオ講師、サンシャインビルの相澤専務、大関さんらにもご協力いただきました。

水族館訪問は初めてということで、開館より早く最初の30分は貸し切りの形で特別に受け入れてくれました。子ども達が水槽に走り、ジーっとお魚さんたちに見入っている姿は真剣そのもの。きらきら光るクラゲのトンネル、サメや魚群の大水槽の迫力。本当に熱中していました。屋上では、天空に舞うようなペンギンの群れ、愛嬌のあるオットセイたちに、子ども達はそれぞれ話しかけていました。

(2面に続く)



シナリオづくりにも挑戦 子どもスマイル in サンシャイン

今回は初めての試みとして、子ども達はシナリオ・ライティング(物語づくり)に挑戦しました。

水族館見学が終わった後、ビル側が無償で提供してくれたカンファレンスルームで、一時間ほど、小林幸恵会員(シナリオセンター代表)と講師の新井一樹さんに指導していただきました。

主人公の名前を考えることから始め、ひとりひとりが物語づくりに取り組み、何人かはみんなの前で発表もしました。テーブルクロスに使った大きな色紙にそれぞれの思いを絵に描いたりもして、とても楽しい時間になりました。親子で参加した家族は親子が対話する機会にもなったようで、子どもたちが「ぜひ続けてくださいね。絶対だよ」と言っていたのが心に残りました。

そのあと、サンシャインの方が用意してくれた特製のお弁当を皆で食べました。ハンバーグやエビフライなど大好きなものがいっぱい詰まったお弁当で、イルカをかたどったおにぎりが特に人気でした。

子どもの居場所を提供して地域貢献するサンシャインビル、日頃から地域の子どもたちを支援しているWAKUWAKUネットワーク、そして企画・運営に当たったキワニスクラブが協力することで実現したこのイベント。コロナ渦を乗り越えて、定着することを願っています。
(事業企画委員会)



小林幸恵会員(シナリオセンター代表)

今回のキッズシナリオは春休みなので、物語づくりの楽しさを感じてもらおうと行いました。ちょっと大変だったのは、年齢もばらばらで、字を書けない3歳児から高校生まで、ネパールや中国の子どもなど多種多様で、日本語を書けない、読めない子どももいて、さすがに戸惑いました。でも、うまく書けない子は書けないなりに、書きたい子は裏までびっちり、15分くらいでシナリオを描いてくれました。

ウクライナの難民だけでなく、多国籍の子どもたちが日本にも増えてきています。生き方、育ち方、言葉の違う人々がお互いを知るためにも、シナリオをうまく使って、相手への想像力を広げていけたらと思います。それは、案外難しいことではなく、自分と違うことを面白がって出会えば、多種多様の集まりでも、なんとなく気持ち通じるものだと思います。

栗林知絵子(豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長)

春休みのステキな思い出づくりに、心から感謝申し上げます。

参加した子どもたちの声。「魚がいっぱい見られて嬉しかった」「カワウソとチンアナゴが可愛かった。また行きたい」「印象に残ったのは一番がクラゲ(キレイだった)、二番がサメ(かっこよかった)、三番がアザラシ(可愛かった)」「ペンギンが泳いでいるところでパンフレットを丸めてかざすと反応してひょいひょい後を追いかけてくるのが面白かった。同じ学年の中国の男の子がいたから中国語で喋ったり遊んだりしたのも楽しかった」「シナリオ作りも母や弟と一緒に考えるのがとても面白かった。またこのようなイベントがあったら是非参加したい」

大学生ボランティアからは「参加できてよかった。さまざまな年代の人が関わっていて素晴らしい。子どもとも親しくなれてよかった。また参加したい」との感想が届きました。

以前参加していた中学生が、成長して高校生になり今回はボランティアで参加しました。このつながりは、人にやさしい未来につながっているなあと感じています。